

# 第 130 回講演大会（京都大学）シンポジウム講演募集テーマ

## S1 非水系の電気化学プロセス

企画：関西支部

(趣旨) 熔融塩、イオン液体、有機溶媒に代表される非水溶媒は、その広い電位窓を活かした金属電析など、表面技術において一分野を築いてきた。最近では、ポストリチウムイオン電池としてナトリウム、マグネシウム、アルミニウムなどの金属負極を使う試みも広くなされ、ここでも非水溶媒が活躍している。本シンポジウムは、非水系の電気化学技術に焦点をあて、新しい研究展開にむけた情報交換の場を設けることを目的とする。

## S2 無電解めっき技術の新展開

企画：関西支部

(趣旨) 無電解めっき技術は、エレクトロニクス、家電、自動車産業などの発展を支える要素技術として発展してきました。しかし、ものづくりのグローバル化、長引く円高により、電子部品や工業製品の製造拠点がアジア諸国へ移ってきています。将来における我が国の電子部品やものづくり産業の維持と新展開を進めるには、無電解めっき技術などの要素技術を深化させ、国際的な競争力を持つ技術開発が不可欠です。本シンポジウムでは、“無電解めっきの新展開”をテーマに設定し、無電解めっきの研究開発・技術展開、電子材料への新たなめっき技術開発などについて広く公募いたします。

## S3 ドライブプロセスによる表面改質・コーティング技術の現状と今後を考える

企画：関西支部

(趣旨) ドライブプロセスは、主に工具・金型への硬質膜形成技術として発展し、近年は DLC 膜の登場によってトライボロジー分野への応用が拓けるなど着実に進化を遂げてきた。そして今日、ものづくり技術の高度化が進む中、ドライブプロセスに寄せられる期待はますます多様化している。本シンポジウムでは、ドライブプロセスによる表面改質・コーティング技術やそれらを支える評価技術などに関する講演を広く募集し、これら最前線の動向からドライブプロセスの今後を展望したい。

## S4 エネルギー材料の新展開

企画：ナノテク部会

(趣旨) 資源の枯渇問題に直面し、近年、クリーンなエネルギーに対する社会的要請が高まっており、エネルギーの高効率利用や環境負荷の少ないエネルギー創出を実現するための材料開発が重要となっている。これを実現するためには、既存の材料技術の高度化や高機能性ナノ材料の創製技術の確立が必要である。本シンポジウムでは、エネルギー材料に関する創製技術やそれらの評価技術などに関する講演を広く募集し、エネルギー関連の材料開発に関する技術の現状と今後について議論する。